

実証運行の検証について

令和2年6月より、交通空白地帯である円山地域の支援対策の他、企業等の立地誘導、高齢者等の安全・安心の確保、公共交通機関を起点とした町づくりなど地域公共交通の実施による優位性を検証するため実証運行を開始。実証運行可能期間の最終となる3年目であることから、これまでの実証運行で得られたデータの検証を行った。

実証運行の概要

■運行内容概要

令和2年度 毎日運行 / 1日4便
1便 8:55 2便 10:25 3便 12:40 4便 14:55
計304日間運行（年未年始運休有）

令和3年度 毎日運行 / 1日4便
1便 8:55 2便 10:25 3便 12:40 4便 14:40
計361日間運行（年未年始運休有）
※4便のダイヤ修正

令和4年度 週5日（月・水・金・土・日）運行 / 1日3便
1便 9:00 2便 10:30 3便 13:40
計258日間運行予定（年未年始運休有）

※費用対効果等を勘案し、運行日及びダイヤを修正

■運賃等

均一 200円
※小学生以下、障がい者（身体・知的・精神）手帳保持者及び介護者1名無料。

※令和3年8月より、運転免許証自主返納支援事業を開始。コミュニティバス等無料乗車券・無料回数券を利用された方は無料（ノッタラインと併用可）。

運転免許証自主返納支援事業 実績
令和3年度：無料乗車券 24件 無料回数券 11件 計35件
令和4年度：無料乗車券 15件 無料回数券 6件 計 21件
（11月末時点）

■運行業者

株式会社 キングハイヤー（岩内町字万代9番地1）
代表取締役 廣田 大

選定方法：町内のハイヤー・タクシー業者2社での指名競争入札によって選定された業者にて委託契約運行実施。

年間運行経費及び利用状況の推移及び検証

■運行経費

令和2年度 委託料 6,820,000円
 追走分 27,500円
 合計 6,847,500円

令和3年度 委託料 8,316,000円
 追走分 55,000円
 合計 8,371,000円

令和4年度（見込）
 委託料 4,389,000円
 追走分 495,000円
 合計 4,884,000円

【検証・考察】

各運行内容に応じた経費となるため、令和2年度は委託期間10ヶ月、令和4年度は運行日減及び便数減により委託料が低い。

令和4年度は、運行日数減の影響を受け、追走が大幅に増となる見込。火曜・木曜の利用予定を翌日に繰り越していることが推察される

■利用者状況・運賃収入

令和2年度 総利用者数 4,744人
 内訳 大人 3,980人 子供 10人 障がい者 754人
 総運賃収入 796,000円（収支率 11.62%）

令和3年度 総利用者数 6,345人
 内訳 大人 4,871人 子供 15人 障がい者 1,264人
 無料回数券使用者 54人 無料乗車券使用者 141人
 総運賃収入 974,200円（収支率 11.64%）

令和4年度 総利用者数 5,218人（見込）
 内訳 大人 3,672人 子供 12人 障がい者 1,078人
 無料回数券使用者 14人 無料乗車券使用者 442人
 総運賃収入 734,400円（収支率 15.04%）

【検証・考察】

令和4年度（見込）における収支率の上昇については、減便に伴う委託料の減額に比べ利用減少が少ない＝利用者の「客離れ」が少なかった。また、自主返納事業にて無料乗車券等を活用していた方が、使用期間が終了した後もユーザーとして定着し、利用者が増えた。などの理由と考えられる。

停留所別利用の検証

運行内容を変更した令和4年度4～9月のデータと比較するため、令和2年・3年のデータについても半年間のデータを集計し、比較検証した。(集計検証実施10月)

○停留所別の最大利用箇所は、「グリーンパークいわない」(令和3年12月末で閉鎖)であったことから、乗合タクシーのメインユーザーは「市街地からの温泉利用者」。

【グリーンパークいわない】降車人数 R2:1,022人 R3:781人

○令和4年度においては、「いわない温泉 おかえりなさい」「サンサンの湯」が前年度に比べ2倍以上となる見込。グリーンパークいわないを使用していた方々はそれぞれ、別の温泉施設を利用しているとうかがえる。また、R2及びR3の6ヶ月累計利用者がほぼ同数であることから、ある程度固定の方が利用していることがうかがえる。

【おかえりなさい】降車人数 R3:217人 R4:492人(見込)

【サンサンの湯】降車人数 R3:212人 R4:415人(見込)

【累計利用者数】 R2:2,924人 R3:2,933人 R4:2,172人(見込)

○円山エリアの住民利用については、「岩内町役場」「協会病院」乗降者を比較すると、往路の乗車数より復路の降車数が多いことから、主に協会病院・買い物・役場利用等で使用している方が多いことがうかがえる。

【往路 協会病院】乗車275人 【復路 協会病院】降車429人

【往路 岩内町役場】乗車48人 【復路 岩内町役場】降車128人

実証運行の検証について

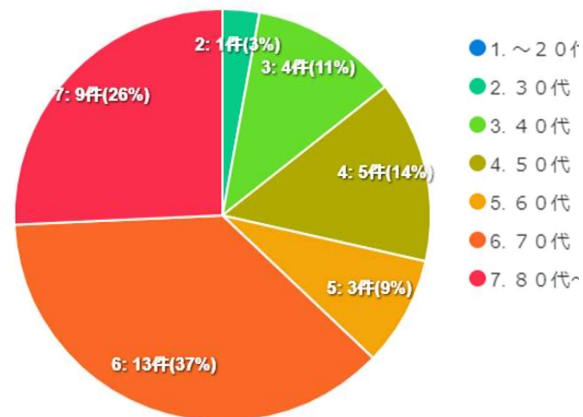
沿線住民アンケートについて

円山地域居住者の意識調査を目的としてアンケートを実施。

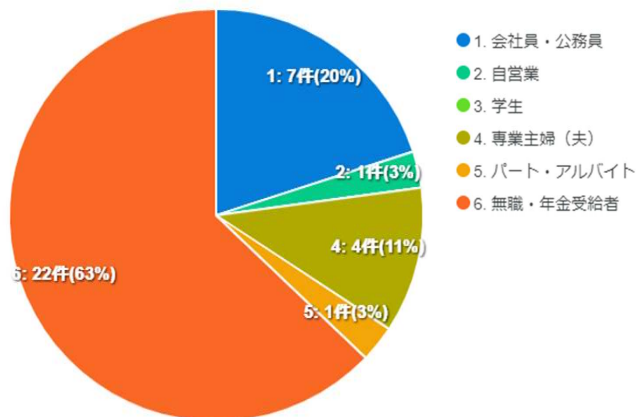
対 象：運行ルートである道道野東・清住線住民で野東第一自治会会員（47戸）
アリスの里団地町内会会員（47戸） に配布。
乗合タクシー利用者に依頼（7名回答）

回収率：回収数 33枚 / 配布数 101枚 = 回収率 32.67%

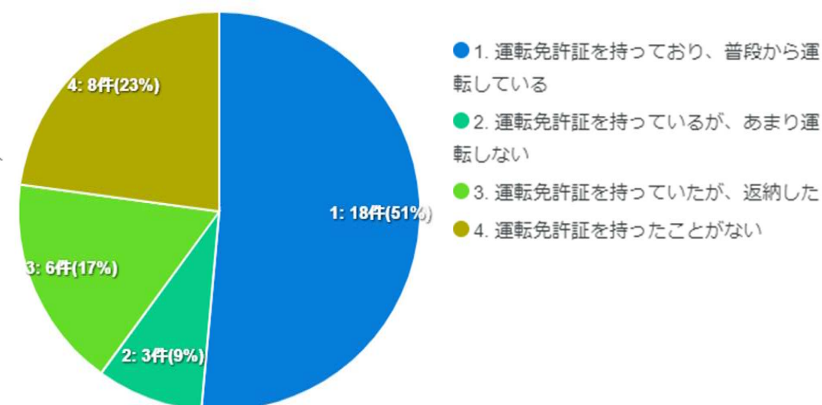
設問 年齢



設問 職業



設問 運転免許の所有について

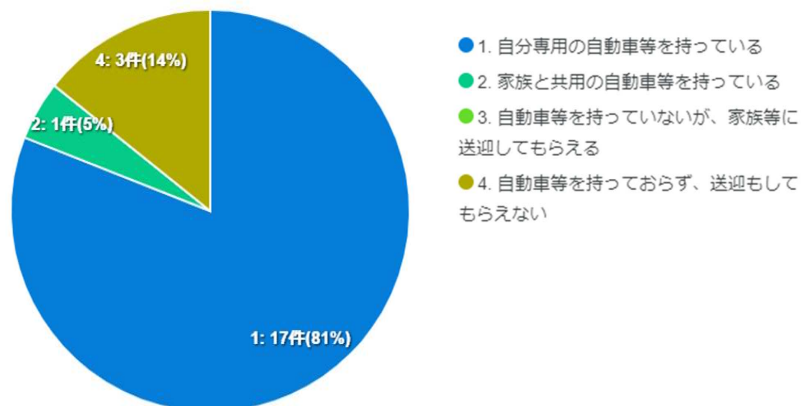


回答者の傾向としては、全体の7割が60代以上の高齢者かつ6割超が無職または年金生活者であったものの、運転免許証を持ち自家用車を所有する方が半数以上を占める。

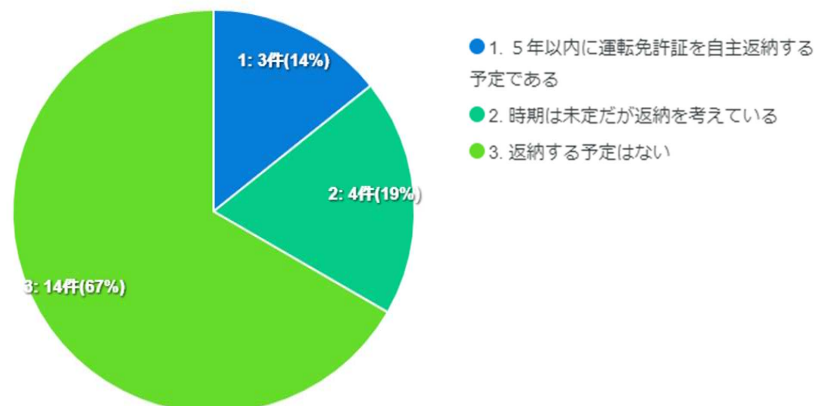
実証運行の検証について

沿線住民アンケートについて

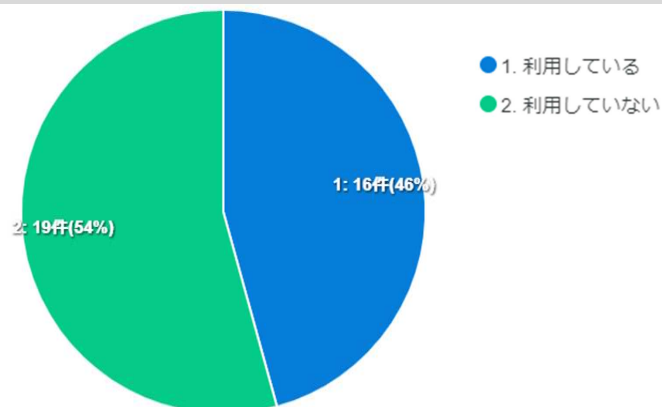
設問 自動車の保有状況



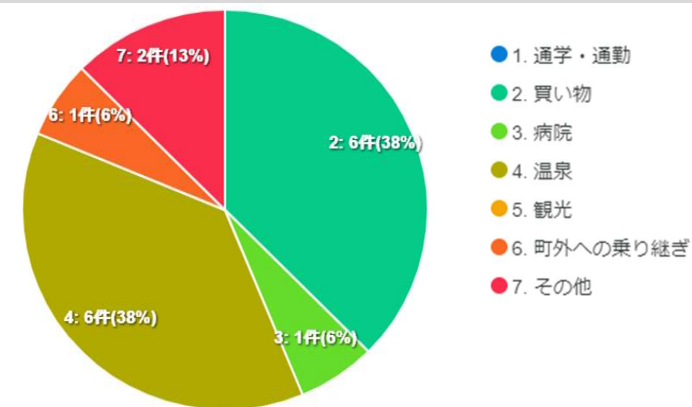
設問 運転免許証自主返納について



設問 日常的に乗合タクシーを利用しているか



設問 乗合タクシーの利用目的

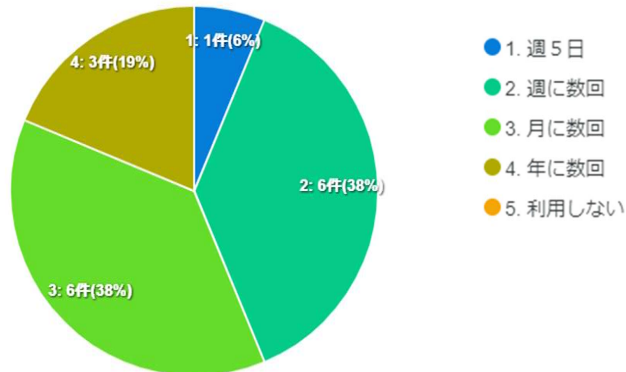


運転免許証の自主返納を考えている人は少数派。円山地域に居住する方には、自家用車が生活に必要であることがうかがえる。乗合タクシーの利用状況としては、円山地域居住者は「買い物」市街地からの利用者は「温泉」利用となっていることがうかがえ、往路と復路の有効活用ができていくことがうかがえる

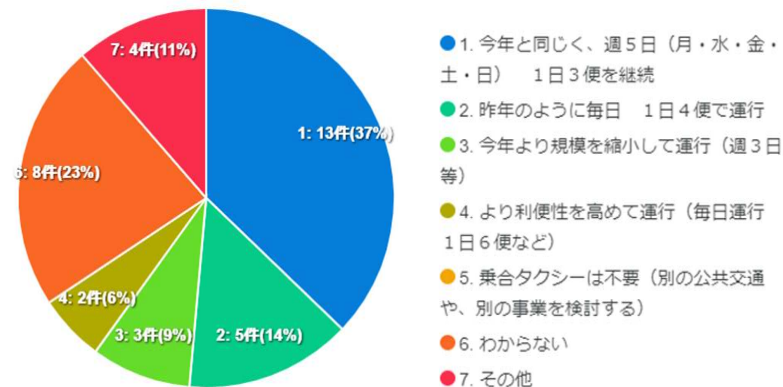
実証運行の検証について

沿線住民アンケートについて

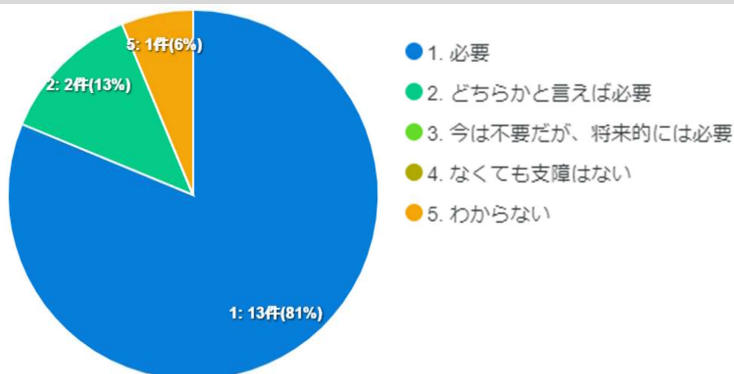
設問 乗合タクシーの利用頻度
(普段乗合タクシーを利用している方)



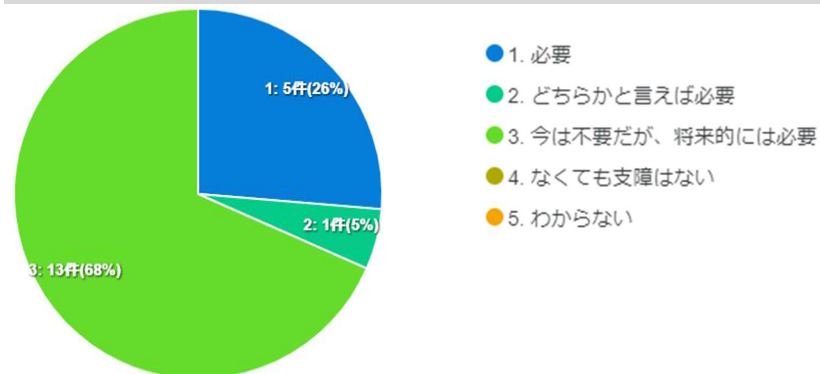
設問 乗合タクシーのあり方 (運行内容) について



設問 乗合タクシーは必要だと思いますか。
(普段乗合タクシーを利用している方)



設問 乗合タクシーは必要だと思いますか。
(普段乗合タクシーを利用していない方)



利用頻度としては、「週に数回」と「月に数回」の回答が同率で38%となっており、利用する方は、最低でも月1回は使用することがわかる。また、週5日毎回利用する「常連」の方もいる。また、運行内容等についても現状維持を望む回答が最も多かった。

乗合タクシーについては、利用者の8割が必要、非利用者も将来的には必要と回答する方が7割弱を占めており、円山地域にとって乗合タクシー（公共交通）の必要性の高さをうかがうことができる。

実証運行の検証結果について（総括）

【 総 括 】

実証運行開始直後より、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による外出控えや、緊急事態宣言等の影響を多大に受けており、利用者に関するデータの正確性については、この運行期間では高められない状況であったが、実証運行中であるものの継続的に約3年間実施してきたことにより、円山地域に居住する方々や、温泉施設を利用する方々の「足」として認知、定着している。

アンケートからも、円山地域での公共交通確保の継続を望む声は多く、今後地域の高齢化が進むほどに公共交通の必要性が高まることがうかがえた。

また、現在の主な利用者は、市街地に住む日帰入浴での温泉施設利用者であり、乗合タクシーが、円山地域の温泉施設の活性化やユーザー確保を下支えしているという側面があると考えられる。

こうしたことから、実証運行の目的である、①円山地域の公共交通不便地域の解消 ②健康増進 ③日常生活の利便性向上については達成できているものと捉えており、今後も公共交通の確保は必要であり、円山地域乗合タクシーの本格運行は必要であると考えられる。